

2018年10月19日

The Emerging Markets Weekly

タームプレミアム復活を警戒すべき時

新興国市場: 12日にトルコがテロに関連する罪に問われていた米国人牧師アンドリュー・ブランソン氏の軟禁を解除したことが好感され TRY は週明けの15日に上昇した。一方、原油価格の上昇を受けてエネルギー純輸入国が多いアジア通貨は軟調な推移。その後発表された米9月小売売上高が市場予想を下回ったこと、米中貿易摩擦を巡る懸念やサウジアラビアのジャーナリスト失踪問題を受け地政学リスクの高まりがドルを圧迫したため、中南米通貨は堅調となった。16日、アジア株の底堅い値動きを横目にアジア通貨は堅調推移となり、中でも KRW が力強く上昇。韓国と北朝鮮が南北首脳会談でまとめた経済協力の再開に向けた閣僚級会談を行い、鉄道と道路の連携事業などを開始することで合意したことが好感された。米9月鉱工業生産が市場予想を上回ったこと、米企業決算の良好な結果を背景に NY ダウ平均は上昇。米株上昇と米長期金利低下によりリスクオンの地合いとなったことに加え、17日に中国人民銀行(PBoC、中央銀行)が CNY の基準値を CNY 高方向に設定したことからアジア通貨は堅調に推移。また、ポンペオ米国務長官はブランソン氏の解放を受けてトルコに課した制裁の一部を緩和する可能性を示唆すると、トルコと米国の関係の改善に対する期待から TRY は上昇した。他の南米通貨が下落する中、BRL はブラジル大統領選の決選投票(10月28日)で極右党候補のボルソナロ下院議員が勝利するとの観測がサポート材料となり上値を伸ばした。18日、前日に公表された9月 FOMC 議事要旨で中立金利以上に政策金利を引き上げる可能性が指摘されたことが新興国通貨全体の重しとなり、とりわけ MXN、ZAR が▲1.4%と大きく下落した。韓国銀行(BOK、中央銀行)は金融政策会合で政策金利の据え置きを決定。一部では利上げを期待する向きもあったため、KRW は他のアジア通貨より軟調な動きとなった。

アジア: 米財務省は半期に一度の為替政策報告書を17日に発表した。中国が為替操作国に認定されるかが焦点となっていたが見送られた。報告書では CNY の為替相場の形成に透明性が欠けるとし、引き続き値動きに注視していくと述べた。同日に BOK は金融政策会合を開催し、政策金利を1.50%に据え置いた。声明文では雇用の弱い伸びと、米国の通商政策に懸念を示し、2018年の GDP 成長率見通しを▲0.2%ポイント引き下げた。しかし、李柱烈 BOK 総裁は記者会見で、今回の決定は賛成5人に対し反対2人と全会一致でなかったことを明らかにしたほか、韓国経済は依然として堅調であり、インフレが目標水準に達している状況であれば金融面の不均衡に目を向ける時期だと述べ、利上げに向けた条件が揃いつつあることを示唆した。

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

多田出 健太

03-3242-7065

kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上